

2009.2.13 労働政策フォーラム
「キャリアマトリックスの新展開」

若年キャリアカウンセリング 実践への活用

こころとキャリアのカウンセリングオフィス結
代表 山本公子

1 はじめに

- 若年キャリアカウンセリングの実践現場におけるキャリアマトリックスの活用について報告する。
- 筆者は、大学等での授業やセミナーといった集団対象の教育支援と、キャリアデザインルーム、カウンセリングルーム、公的機関の就労支援等、幅広い年代の個別支援を行っている。
- キャリア情報は重要で、また提供にあたって、個人のレディネスやニーズに合わせた様々な工夫が必要である。現状での問題、活用例、今後の課題等について取り上げる。

2 若年キャリアカウンセリング におけるキャリア情報

キャリア形成の6ステップ（キャリア教育の6分野）

- 自己理解
- 職業理解
- 啓発的経験
- キャリア選択に関わる意思決定
- 方策の実行
- 仕事（進路先）への適応

* 「H13キャリアコンサルティング技法等に関する調査研究報告書」より

キャリアカウンセリングで 考慮すること

- クライエントの意向・どういう人かの判断（年齢、レディネス、相談目的、問題点など）
- キャリアカウンセリングのどのステップにいるか
- どのようなキャリア情報が必要か
- カウンセリング、アセスメント、職業情報、その他の資源の総合的な利用

キャリアカウンセリングの内容

- クライアントが自主的に意思決定し、次のステップへ行動を起こせるような支援を心がける。
 - 「カウンセリング」個人が内面と向き合い、意思決定していくために
 - 「アセスメント」客観的自己理解のために（能力、興味、行動特性、価値観など）
 - 「キャリア情報」職業や進路について情報を提供し、方向性を考えるために

キャリアマトリックスの特長

□キャリアカウンセラーからみて

1. から のあらゆるステップで活用できる。
職業理解、自己理解の支援、意思決定や行動支援に役立つ情報、業界団体や相談機関ほか
2. データの公平性と信頼性が保たれて、キャリア情報のスタンダードとしての意味がある。
3. クライエントの年齢、ニーズやレディネスに合わせて、カウンセラーが工夫して活用できる奥深さ。

使い方の工夫

- キャリアマトリックス以外の情報も活用する（ハローワーク、若者サポート機関他、地域の支援機関のリスト、各種制度の紹介等）
- アセスメントとしてVPI（職業興味）、GATB（能力適性）などを利用することも
- 利用者が自分でシステムを使える場合「生徒・学生・若者」コーナーを紹介し、画面を見せるなどして説明
- 自己内面の把握とキャリア情報の統合が一人で難しい場合は、カウンセラーが手助けする。

3 キャリアマトリックスの 活用例

(1) キャリアの方向性を見いだす

1. 自己理解を進める～適職探索コーナー（自己理解）と職業情報を利用
2. 職業理解～漠然とした職業イメージを絞る～職業情報の課業（タスク）を利用
3. 狭すぎる職業イメージを広げる～「ジョブタウン」「職業ギャラリー」。私のしごと館「ジョブジョブワールド」の利用など。
4. 資格取得の意欲を持たせる～職業情報と能力開発情報を利用

(2) 就職活動に役立てる

1. エントリーシート・履歴書の作成など
適職探索コーナー（自己理解）、職業情報、
「就職サポートブック」などを利用
2. 求人情報を得る～職業情報のうち業界団体情報
から展開して自分で見つける。ハローワークイ
ンターネットサービスの利用
3. 就職ガイダンスを受けたい、職場体験したい～
サポーターズネットから、ヤングハローワーク
ジョブカフェなど相談機関の情報を得る

(3) 進路や就職先が決まっている

1. 進路選択についてのふり返りと確認
適職探索や、職業情報を見てもらうことで、自分の方向性が違っていなかったことを確認できる事も多い
2. キャリアの課題を整理し、適応を支援する。
3. 目に見えやすい形になり、漠然としていたものが明確になる。変化があれば反映され、気づきが得られ、新しい見方ができ、視野が広がる。

4 キャリアマトリックスへの期待 (1)

1. CACGの充実。収録職業が増えること、
2. 画像・動画など直感的な情報も増えること。
3. 個々人にフィットするキャリア情報
学校を離れた若年者は、孤立し、支援機関が利用しにくい場合も多い。メールなどで簡単に相談できるなど、機能が整備されると良い。

4 キャリアマトリックスへの期待 (2)

4. 課業（タスク）は、初歩レベルからベテランレベルまでが含まれる。入職段階にどれだけが必要かを明らかにすると、初心者にわかりやすく、不安が少ない。
5. 幅広いキャリア情報の充実
ソーシャルスキルや職場適応を視野に入れた、能力開発情報、相談・支援機関、制度など。

4 キャリアマトリックスへの期待 (3)

5. キャリアカウンセラーの専門スキルや支援力アップに繋がること
 - キャリア支援者向け機能や情報の充実
 - 個々人のレディネスに配慮し、カウンセリングとアセスメント結果を結びつけるような支援機能が増すこと
6. 研究開発者、支援者、関係機関等の連携と情報交換できるような場作り